

# 小林一茶の生涯 [一茶研究会編]

## さみしい子どもの頃の一茶

西暦(和暦)	年齢	事 項
1763年(宝暦13年)	1歳	5月5日(西暦6月15日)信州柏原の農家の長男として生まれる。名は弥太郎、父弥五兵衛、母くに。
1765年(明和2年)	3歳	実母くにに死去。後に詠んだ句に「我と来て遊べや親のない雀 六歳弥太郎」と記している。
1770年(明和7年)	8歳	継母「はつ」が来る。
1772年(安永元年)	10歳	異母弟仙六(せんろく)が生まれる。一茶は、新しい母になじめなかった。
1776年(安永5年)	14歳	一茶をかわいがってくれた祖母「かな」死去。

## 江戸で俳諧と出会う一茶

1777年(安永6年)	15歳	春、江戸へ奉公に出る。以後10年間の消息は不明。
1783年(天明3年)	21歳	浅間山噴火。天明の大飢饉。千葉県松戸馬橋(まばし)の大川立砂(おおかわりゅうさ)のもとに奉公したと伝えられる。
1787年(天明7年)	25歳	葛飾派(かつしかは)の指導者溝口素丸(みぞぐちそまる)(涓浜庵(いひんあん))の執筆(しゅひつ)を務める。
		葛飾派の小林竹阿(こばやしちくあ)(二六庵(にろくあん))に師事する。
1788年(天明8年)	26歳	葛飾派の森田元夢(もりたげんむ)(今日庵(こんにちあん))に師事する。このころ、「菊名(きくめい)」の名を使用する。
1790年(寛政2年)	28歳	師の小林竹阿が死去。江戸からの帰郷を奨励する旧里帰農令(寛政の改革の一つ)が発令される。
1791年(寛政3年)	29歳	4月、江戸に出てからはじめて柏原に帰る。帰郷の様子を「寛政三年紀行」に著す。この頃から「一茶」を名乗る。

## 修業の旅に明けくれる一茶

1792年(寛政4年)	30歳	3月、西国行脚に出発。足かけ7年の旅をする。「知友録」は寛政初年にまとめた交遊俳人住所録。
		夏、京坂地方を訪れる。旅の様子は「寛政日記」に執筆。
1795年(寛政7年)	33歳	師の溝口素丸が死去。秋、大津の義仲寺(ぎちゅうじ)の芭蕉忌に参加する。

## 俳諧師として活躍する一茶

1800年(寛政12年)	38歳	関西で出版された「諸国人気俳人番付」に下位ながら「前頭江戸一茶」として登場する。
1801年(享和元年)	39歳	4月、帰省中に父が傷感(しょうかん)を発病、5月に死去。遺産分配をめぐり継母・弟と対立が始まる。
		父の死を、後に「父の終焉日記(しゅうえんにつき)」にまとめる。
1804年(文化元年)	42歳	このころより、葛飾派を離れ夏目成美(なつめせいび)や鈴木道彦(すずきみちひこ)らの句会に出席、交流を深める。
1807年(文化4年)	45歳	父の七回忌法要のため帰郷、この年2度の遺産交渉を行う。
1808年(文化5年)	46歳	柏原永住を決意して帰郷、弟と遺産分配の約束をとりかわし、証書「取極一札之事」を提出する。
		柏原村の本百姓として登録される。「草津道の記」
		弟に賠償三十両を要求、交渉が決裂し、江戸へもどる。
1809年(文化6年)	47歳	柏原へ帰り、遺産交渉を行う。「急遽記」は寛政10年(1798)から文化6年(1809)までの発来信の控え。
		高山村紫の久保田春耕(くぼたしゅんこう)を訪れ、以後親しい交際が始まる。
1810年(文化7年)	48歳	柏原へ帰り、遺産交渉を行う。 日滝(須坂市)蓮生寺(れんしょうじ)に、一茶、成美、完来(かんらい)の選による俳額が上がる。
1811年(文化8年)	49歳	このころ、「諸国人気俳人番付」の上位5人の中に位置づけられる。句文集「我春集」。
1812年(文化9年)	50歳	永住を決意して柏原へ帰る。遺産交渉続く。「なにぶくろ」文化9年(1812年)刊。竹堂一峨編、序文は一茶と成美。

## 北信濃に戻り円熟期を迎える一茶

1813年(文化10年)	51歳	亡父十三回忌を行う。弟と和解し、父の遺産の半分を受け取る。
1814年(文化11年)	52歳	「きく」28歳と結婚。
1816年(文化13年)	54歳	長男千太郎(せんたろう)が生まれるが、まもなく死去。
1817年(文化14年)	55歳	江戸へ出る。房総の知友を訪れる。
1818年(文政元年)	56歳	長女「さと」生まれるが、翌年死去。七番日記は、1810年正月から1818年12月までの9年間の記録。
1820年(文政3年)	58歳	次男石太郎(いしたろう)生まれるが、翌年死去。文政2年八番日記風間本。
		中風を発病、言語障害になるがまもなく回復。「おらが春」執筆。
1822年(文政5年)	60歳	三男金三郎(こんざぶろう)生まれるが、翌年死去。「まん六の春」、「文政句帖」、「田中河原の記」。
1823年(文政6年)	61歳	妻「きく」37歳で死去。このころ「諸国人気俳人番付」の評価は首位となる。

## 晩年の一茶

1824年(文政7年)	62歳	「ゆき」38歳と再婚するが、まもなく離婚。
1826年(文政9年)	64歳	「ヤヲ」32歳と三度目の結婚をする。
1827年(文政10年)	65歳	柏原の大火事で母屋類焼、焼け残りの土蔵に移る。北信濃の門人宅を訪ね俳諧の指導をして歩く。文政九~十年句帖写。
1828年(文政10年)	65歳	11月19日(西暦1月5日)仮住まいの土蔵の中で死去。
1828年(文政11年)	没後	死去「ハツ」死去。「ヤヲ」に娘「やた」が生まれる。

□年齢は数え年で表記しています。満年齢では、およそ-1歳です。